

実践事例

実践効果



ねらい：  
簡単な場合の1mをこえる長さのたし算の  
仕方を考える



利用機器・ソフト  
タブレット18台 アクセスポイント1台  
電子黒板 eライブラリアドバンス

■ 学習展開

学習の流れ	学習活動	利用機器・ソフト
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の問題の題意をつかみ、立式する</li> <li>○学習課題を確認する</li> </ul>	
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○問題を式に書いて、計算の仕方を考える                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同じ単位同士をたす</li> <li>・ 式：<math>2m50cm + 40cm = 2m90cm</math></li> </ul> </li> <li>○練習問題を解く                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>2m50cm + 50cm</math></li> <li>・ <math>2m50cm + 60cm</math></li> </ul> </li> </ul>	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○cmとmで表した計算の本時の復習をする                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ eライブラリアドバンスのドリル問題で練習問題を行う</li> </ul> </li> </ul>	タブレット eライブラリアドバンス

■ 授業の様子



計算の仕方を考える



ドリルで「センチメートル」の復習



ドリルで「長さのたし算」の復習

Point

ICT機器活用の効果

- ▶ 児童が自分で問題のレベルを選び、難しい問題に積極的に取り組む姿が多く見られた。
- ▶ 児童が自分のペースで学習できるので、教師は学習の様子をみながら個別フォローが必要な児童のための指導時間を確保しやすい。



## 原田 晴佳 先生にお話を聞きました



タブレットを使ったドリル学習を子どもたちはいつも楽しみにしています。そのため、子どもたちはいつもドリル学習を意欲的に取り組んでいます。算数科では、自分たち自身でレベルを選んでドリルに挑戦している姿が見られました。

ドリル学習をすることで、「分からなかったところが分かるようになった」と子どもたちは実感しています。今後も授業の目的やねらいに応じて効果的に活用していきたいと思えます。

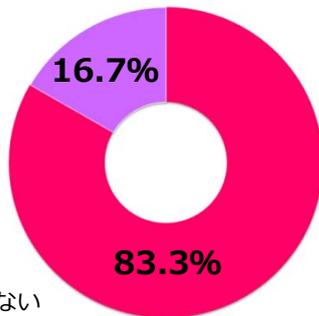
## ICT支援員に授業の様子を聞きました

児童はタブレットが配布されると、早く使いたい様子で先生の話声を静かに聞いている姿が多く見られました。ドリル学習の前に、原田先生が紙テープを使ってcmとmの説明をされており、その違いに気づいてスムーズに問題を解いている児童が多かったです。また、「100cmをこえる長さ」の単元では、文章問題が多く出題されましたが児童は問題を読み上げながら、適切な解答を選択し着実に問題を解いていました。

## 授業後に児童の学習意欲がどのように変化したかアンケートを取りました

Q1 eライブラリアドバンスを使った学習は楽しいですか？

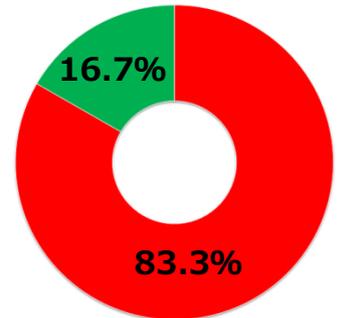
83.3%の児童が「とても楽しい」と答えています。



■ とても楽しい ■ 楽しい  
■ あまり楽しくない ■ 楽しくない

Q2 eライブラリアドバンスでまたドリル学習をしたいですか？

83.3%の児童が「また学習したい」と答えています。



■ また学習したい ■ もうしたくない  
■ あまりしたくない

Q3 eライブラリアドバンスを使って、良かったことはどんなことですか？

70%の児童がドリルで100点を取れて良かったと答えています。

- ① 100点を取れた
- ② わからない問題が解けるようになった
- ③ 知らないことがわかるようになった
- ④ 苦しい学習が好きになった
- ⑤ 答えを確かめながら学習できたこと

